

経営比較分析表（令和4年度決算）

福島県南相馬市 南相馬市立総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	24	-	ド透1未訓	救急災害輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
57,527	21,321	-	第2種該当	10：1

1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療

2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輪...病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
250	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
224	-	224

当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （病院の閉鎖・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

地域において担っている役割

当院は、一般医療の提供のほか、救急・小児などの地域に不可欠な医療や災害・感染症への対応も行い、相双地域における基幹的な公立病院として、地域医療の確保に重要な役割を果たしている。さらに、令和4年度は新型コロナウイルス感染症への対応においても重点医療機関としての役割を果たしている。

令和元年度に市立小高病院を廃止し、市立総合病院附属小高診療所としたことから、元年度以降の指標は総合病院+小高診療所となっている。

病床利用率については、R03までは稼働病床230床に対する利用率であり、R04は引き続き稼働病床230床であるものの許可病床300床に対する利用率となっている。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医療収支では苦戦した一方で、地域で求められる新型コロナウイルス感染症への対応への対価として国・県補助金が導入できたことから経常収支比率が100%を超えた。経営健全化に向けては医療収支の改善が必要不可欠であるため、地域連携の強化や病床利用率の改善など、改善の取組を推し進めていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

平成28年度に脳卒中センターを建設したことに伴い、有形固定資産減価償却率が一時的に低下したものの、本館については平成4年度の新設以降は対策工事を実施していないことから設備の老朽化が進んでおり、早急な老朽化対策工事等の対応が必要であると認識している。

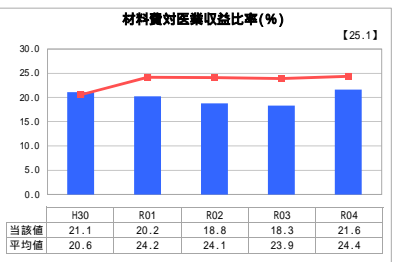
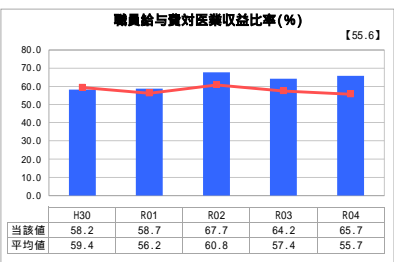
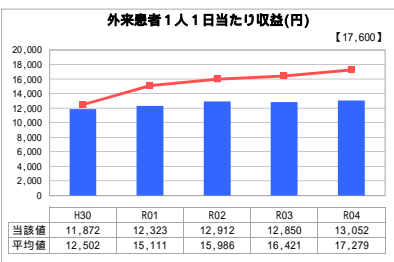
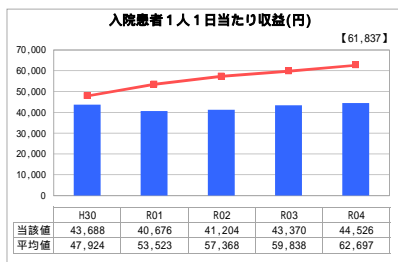
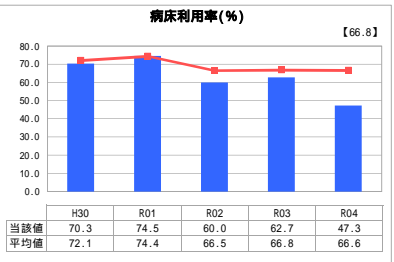
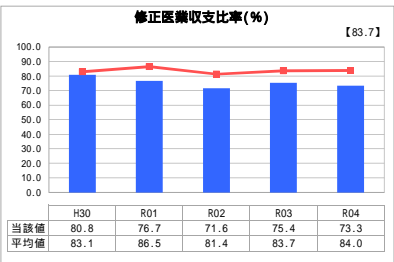
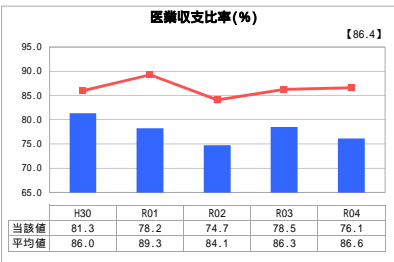
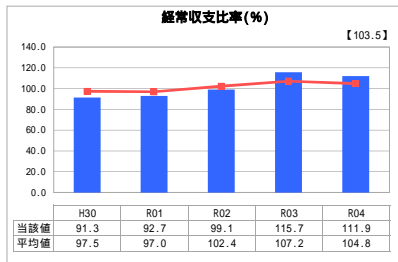
また、器械備品については法定耐用年数を超えて使用している医療機器も多いため、設備同様に更新が必要となるものと予想される。

全体括弧

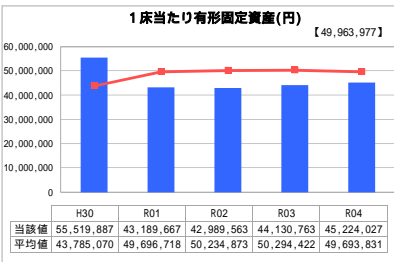
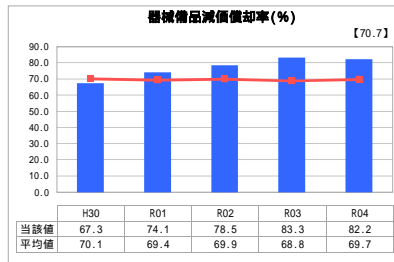
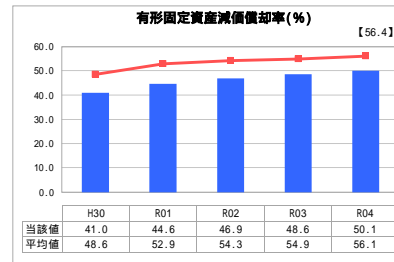
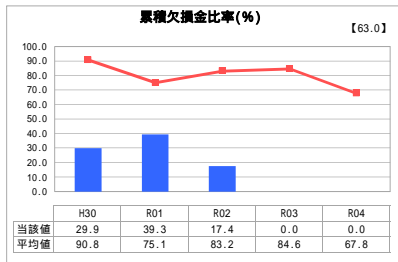
医療収支の改善などの経営健全化の取組が重要であるものの、新型コロナウイルス感染症への対応など地域で求められる役割を果たしている。また、設備・器械備品の老朽化が進んでいる現状を踏まえ、計画的な設備投資が必要である。

今後も経営健全化に向けた取組を継続し、地域で必要とされる医療機能の充実及び地域に不足する医療の提供を安定的にできるよう引き続き努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



類似病院平均値(平均値)については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。